

## 2023\_1027「文京区の豪雨（解析図）」日々の理科 3368 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

今年の10月の東京は、平年に比べて雨が非常に少ないそうです。確かに、秋になってから雨らしい雨が降った記憶がありません。しかし、10月25日の夜だけは様相が一変しました。

原因は午後になって上空に入り込んだ寒気でした。通常この時期に上空に寒気が入っても大雨が降ることはあまりありません。しかしこの日は短時間で、いわゆる「大気の状態が不安定」という状況になり、埼玉南部から東京区部にかけて、非常に優勢な積乱雲（雷雲）が発達したのです。

埼玉から撮県境を越えて、その雷雲は板橋・北・文京付近を南下しました。私は小石川の自宅にいましたが、突然の雷鳴に非常に驚きました。気象庁の「雨雲の動き」で見ると、文京区全域が「80mm/h」の濃い紫色一色で覆われ、対地放電（落雷）や雲放電（幕電）の記号もたくさん見えます。もちろん小石川にも強い雨と、短時間ですが雹も降りました。

このような本来は真夏に発生するような積乱雲が、恐らく今後は秋にも頻繁に発生するのでしょうか。大切なことは、これは決して「異常気象」ではなく、「気候変動の一現象」ととらえるべきだということです。

